

- 疾患克服等次世代育成基盤研究事業（研究代表者 山縣然太郎） 250-266
- 30) ○松田義雄、大槻克文、佐藤昌司、太田創 厚生労働科学研究費補助金「周産期医療の質と安全の向上のための研究」平成26年度 総合研究報告書（研究代表者 楠田 聡）53-6
- 31) ○松田義雄 妊婦健診のすべて一週数別・大事なことを見逃さないためのチェックポイント 「I 妊娠週数ごとの健診の実際」 妊娠22から36週まで 診断と外来対応 preterm PROM 2015 ; 69 (4) : 206-209
- 32) ○松田義雄 切迫早産がある場合の治療で気をつける点は？ 妊婦の糖代謝異常診療・管理マニュアル メジカルビュー社 2015年、東京、106-107
- 33) ○松田義雄 糖尿病合併妊娠・妊娠糖尿病妊婦の妊婦健診時の注意点は？ 妊婦の糖代謝異常 診療・管理マニュアル メジカルビュー社 2015年、東京、104-105
- 34) ○松田義雄 上田 茂 産科医療補償制度の概要 MFICU マニュアル改訂3版 MC メデिका出版、大阪 2015年、43-45
- 35) ○松田義雄 周産期救急の初期対応 いかにかに適確に対応するか 常位胎盤早期剥離：時間との勝負だ 周産期医学 45 (6) : 768-770、2015
- 36) ○松田義雄 日本産婦人科学会医会共同プログラム 事例から見た脳性まひ発症の原因と予防対策：産科医療補償制度再発防止に関する報告書から (1) 臍帯動脈血液ガス所見からみた脳性まひの原因分析 日本産科婦人科学会雑誌 67 (9) 2056-2061、2015
- 37) 三谷 穰 ○松田義雄 妊婦のカロリーコントロールのための食育 産婦人科の実際 2015 ; 64 (1) : 15-19
- 38) ○川口 晴菜『要支援妊婦と向き合う』日本周産期新生児学会雑誌（第51巻5号（平成28年3月刊行）
- 39) ○川口 晴菜 多胎妊娠 妊娠・分娩・新生児管理のすべて 品胎妊娠の管理 川口晴菜 メディカルビュー社
- 40) ○川口 晴菜 周産期医学 特集 多胎妊娠 vol.45 No.1 2015 品胎妊娠の問題点
- 41) ○小川正樹：特集 我々はこうしているーガイドラインには対応が示されていない症例にどう対応するか？ 母体・胎児編 妊娠12週 26歳でリスクのない妊婦から染色体検査を依頼された。周産期医学。2015; 45 (3) : 273-275.
- 42) ○小川正樹：よくわかる検査と診断 第1章周産期分野 A 妊娠中の母体異常・胎児異常 常位胎盤早期剥離。産科と婦人科。2015; 82 (増刊) : 23-26.
- 43) ○米山万里枝、古川奈緒子：深呼吸が及ぼす産後の母親の気分および感情の変化と自律神経系との関連：東京母性衛生学会誌 2015 ; 31 (1) : 29-36.
- 44) 澤口聡子, 京相雅樹, 加茂登志子, 坂本慎一, 李孝珍, 中島章博, 滝口清昭, 河野賢司, ○米山万里枝, 大脇敏之：個人同定に関わる四つの今日的試み：学習院女子大学紀要 2015. 17, 71-78.
- 45) ○松田義雄 産科データ作成と入力 厚生労働科学研究費補助金「周産期医療の質と安全の向上のための研究」平成24年度総括・分担報告書(研究代表者 楠田 聡) 25-86
- 46) ○松田義雄 周産期の臨床研究をいかにかに進めていくかー常位胎盤早期剥離の解析を中心にー 日本周産期・新生児医学会雑

- 誌 2014 ; 50 : 1208-1211
- 47) ○松田義雄 妊婦と toxic shock syndrome 周産期感染症 2014 周産期医学 2014 ; 44 巻増刊号 : 135-139
- 48) 佐藤昌司、○松田義雄、中井章人 日本産科婦人科学会周産期データベースの改変-フォローアップ研究原資としての活用を見据えて-平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 低出生体重児の予後および保険的介入並びに妊婦および乳幼児の体格の疫学的調査研究手法に関する研究 46-51
- 49) 横山徹爾、加藤稲子、栗山進一、佐々木敏、佐藤昌司、○松田義雄、中井章人 他出生前コホート研究で用いる質問表データベース開発 平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 低出生体重児の予後および保険的介入並びに妊婦および乳幼児の体格の疫学的調査研究手法に関する研究 85-91
- 50) 佐藤昌司、○松田義雄、中井章人 日本産科婦人科学会周産期登録データベースを用いた日本人の出生体重並びに新生児予後に関する疫学的検討 平成 24-26 年度厚生労働科学研究費補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 低出生体重児の予後および保険的介入並びに妊婦および乳幼児の体格の疫学的調査研究手法に関する研究 80-89
- 51) 横山徹爾、加藤稲子、栗山進一、佐々木敏、佐藤昌司、○松田義雄、中井章人 他出生前コホート研究で用いる質問表データベース開発 平成 24-26 年度厚生労働科学研究費補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 低出生体重児の予後および保険的介入並びに妊婦および乳幼児の体格の疫学的調査研究手法に関する研究 130-136
- 52) 小川正樹、○松田義雄 妊娠高血圧症候群 UPDATE 硫酸マグネシウム製剤 周産期医学 2014 ; 44 : 1493-1496
- 53) 小川正樹、○松田義雄 管理法はどう変わったか? : 温故知新 産科編 出生前ステロイド投与の変遷 周産期医学 2014 ; 44 : 327-330
- 54) 小川正樹、○松田義雄: 特定妊婦の把握に必要な医療情報に対する医療側と自治体側との意識の相違. 周産期医学. 2014; 44 (6) : 855-859.
- 55) 菊地 菜美, ○川口 晴菜 保健指導で見せて使えるシート付き 妊婦さんに説明できる! 妊娠期の異常徴候 早産・切迫早産を説明しよう! ペリネイタルケ 2014; 33 (8) : 764-767
- 56) 馬淵 亜希, 石井 桂介, 田口 貴子, ○川口 晴菜, 山本 亮, 村田 将春, 林 周作, 光田 信明 双胎の経膈分娩における新生児合併症の頻度とリスク因子の検討 日本周産期・新生児医学会雑誌 2014; 50 (1) : 278-284
- 57) ○小川正樹: 第 7 章妊娠中期における産科救急疾患 H. 多胎妊娠、I. 肩甲難産、J. 臍帯脱出、K. 臍帯破裂、L. 他の臍帯疾患、M. 羊水塞栓 病院前救護のための産科救急トレーニング—妊娠女性・院外分娩に対する実践的な対処法 新井隆成編 中外医学社 2014 年
- 58) ○小川正樹: 早産期発症の常位胎盤早期剥離における予後不良因子に関する検討. 周産期学シンポジウム抄録集. 2014; 32: 123-127.
- 59) ○松田義雄 産科データ作成と入力 厚

- 生労働科学研究費補助金「周産期医療の質と安全の向上のための研究」平成24年度総括・分担報告書(研究代表者 楠田 聡) 25-86
- 60) ○松田義雄、平田修司 市町村におけるハイリスク妊産婦・新生児の情報把握の現状と医療機関の連携 平成24年度厚生労働科学研究費補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 母子保健事業の効果的実施のための妊婦健診、乳幼児健診データの利活用に関する研究(研究代表者 山縣然太郎) 136-140
- 61) ○松田義雄、板倉敦夫 埼玉県における妊婦健診受診票を活用した母子保健の取り組み 平成24年度厚生労働科学研究費補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 母子保健事業の効果的実施のための妊婦健診、乳幼児健診データの利活用に関する研究(研究代表者 山縣然太郎) 132-135
- 62) ○松田義雄、板倉敦夫、平田修司、小川正樹 ハイリスク母児(要支援家庭)への早期介入を目的とした妊娠中データベースの利活用に関する研究 平成24年度厚生労働科学研究費補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 母子保健事業の効果的実施のための妊婦健診、乳幼児健診データの利活用に関する研究(研究代表者 山縣然太郎) 121-131
- 63) ○松田義雄、海野信也、鈴木 真 周産期医療期間の診療状況(医療資源・治療体制・教育体制)に関する研究 平成24年度厚生労働科学研究費補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 地域における産科医、小児科医の実態把握に関する研究(研究代表者 海野信也) 42-47
- 64) ○松田義雄、三谷 穰 臨床研究から実地臨床へ前期破水管理の変遷を通じて 周産期医学 2013; 43 (10) : 1199-120
- 65) ○松田義雄 脳性麻痺 発症防止への挑戦 脳性麻痺発症率提言への戦略 常位胎盤早期剥離 臨床婦人科産科 2013; 67 (9) : 906-911
- 66) ○松田義雄 日本産婦人科医会共同プログラム 産科医療補償制度:事例から見た脳性まひ発症の原因と予防対策 (4) 常位胎盤早期剥離による脳性まひ 日産婦誌 2013; 65 (10) : N-225-230
- 67) ○松田義雄 日経メディカル 出生時に仮死の認められなかった脳性麻痺児について 小児科診療 UP-to-DATE ラジオ NIKKEI 放送内容集 vol. 3 2013
- 68) ○松田義雄 産科医療補償制度 原因分析委員会からの報告「出生時に、low pH, low Apgar ではなかった脳性麻痺児の検討 第31回周産期学シンポジウム抄録集 成熟児の asphyxia と cerebral palsy メジカルビュー社、東京 15-22, 2013
- 69) ○松田義雄、川道弥生、林 邦彦 高年妊娠・若年妊娠 妊娠年齢をめぐる諸問題 -日産婦周産期登録データベースでみる高年・若年妊娠の分娩統計結果 周産期医学 2013; 43 (7) : 833-836
- 70) ○松田義雄 新しい妊婦健診体制構築に向けて 京都母性衛生学会誌 2013; 21 (1) : 2-6
- 71) ○松田義雄、三谷 穰 第二部 母体心・呼吸器疾患 目でみる妊娠と出産 文光堂 2013年 (編集:馬場一憲) 146-147
- 72) ○松田義雄、三谷 穰 第二部 母体腎・尿路疾患 目でみる妊娠と出産 文光堂 2013年 (編集:馬場一憲) 148-149
- 73) 海野信也、○松田義雄、中井章人、澤 倫太郎、村上真紀 ウェブサイト「周産期医

- 療の広場」を介した周産期医療情報の提供方法に関する研究 平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 地域における産科医、小児科医の実態把握に関する研究(研究代表者 海野信也) 15-21
- 74) 海野信也、○松田義雄、中井章人、澤 倫太郎、村上真紀 産婦人科医師数の実態に関する研究 平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 地域における産科医、小児科医の実態把握に関する研究(研究代表者 海野信也) 28-37
- 75) 海野信也、○松田義雄、中井章人、澤 倫太郎、村上真紀 産婦人科医療改革公開フォーラムの開催と動画配信 平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 地域における産科医、小児科医の実態把握に関する研究(研究代表者 海野信也) 48-84
- 76) 小川正樹 ○松田義雄 脳性麻痺と産科医療補償制度—低酸素性虚血性脳症による脳性麻痺—胎児期の薬物療法 周産期医学 2013 ; 43 (2) : 195-198
- 77) 小川正樹、○松田義雄 妊婦の実地内科日常臨床 慢性内科疾患と妊婦管理 - 妊娠許可条件と産科の連携のすすめかた - Medical Practice 2013 30 (9) : 1484-1490
- 78) 三谷穰、○松田義雄 常位胎盤早期剥離の病態と管理 疫学 最近の動向を含めて 周産期医学 2013 ; 43 (4) : 413-418
- 79) 三谷穰、○松田義雄 常位胎盤早期剥離の病態と管理 児の予後 周産期医学 2013 ; 43 (4) : 517-520
- 80) 小川正樹、○松田義雄、鷲尾洋介 【周産期の画像診断】胎児診断から新生児診断へ 胸水 周産期医学 2013 ; 43 巻増刊号 : 689-695
- 81) ○川口晴菜 林周作 石井桂介 光田信明当センターにおける予防的プロゲステロン治療症例の臨床背景と妊娠経過 日本周産期・新生児医学会雑誌 第 49 巻第 4 号 Page1224-1230 (2013. 12)
- 82) ○川口 晴菜, 光田 信明【Q&A で学ぶお母さんと赤ちゃんの栄養】 Q&A 産科編 妊娠前～妊娠中 ウォーキング中の水分のとり方は? 周産期医学 2012; 42 (増刊) : 29-30
- 83) 山崎嘉久: 小児保健の課題と展望「健やか親子 2 1 (第 2 次)」の達成に向けて: 小児科 2015 : 56 : 679-687
- 84) 山崎嘉久: 「健やか親子 2 1 (第 2 次)」における乳幼児健診の意義: 愛知県小児科医会報 2015 : 102 : 14-21
- 85) 上原里程、篠原亮次、秋山有佳、市川香織、尾島俊之、玉腰浩司、松浦賢長、山崎嘉久、山縣然太郎. 市町村における「健やか親子 2 1」に関する母子保健統計情報の利活用の現状と課題. 日本公衆衛生雑誌. (投稿中)

2. 学会発表

- 1) 山縣然太郎、松浦賢長、玉腰浩二、尾島俊之、山崎義久、桑島昭文: シンポジウム 8 「『健やか親子 2 1』の最終評価と次期『健やか親子 2 1』の策定」、第 72 回日本公衆衛生学会総会、2013 年 10 月、三重県(津市)
- 2) 篠原亮次、秋山有佳、市川香織、尾島俊之、玉腰浩司、松浦賢長、山崎嘉久、山縣然太郎: 健やか親子 2 1 の最終評価における課題と次期計画策定の進捗状況報告、第 31 回山梨小児保健学会、2013 年 12 月

- 3) 秋山有佳、篠原亮次、市川香織、尾島俊之、玉腰浩司、松浦賢長、山崎嘉久、山縣然太郎:母親の次子出産希望と育児環境要因の関連検討～健やか親子21最終評価・親子の健康度調査～、第31回山梨小児保健学会、2013年12月
- 4) 篠原亮次、秋山有佳、市川香織、尾島俊之、玉腰浩司、松浦賢長、山崎嘉久、山縣然太郎:妊娠・出産の満足感に関する全国市区町村の継続的支援の効果—健やか親子21最終評価の調査データ解析—、第24回日本疫学会学術総会、2014年1月、宮城県(仙台市)
- 5) 秋山有佳、篠原亮次、市川香織、尾島俊之、玉腰浩司、松浦賢長、山崎嘉久、山縣然太郎:妊娠・出産に関する母親の満足と次子出産希望との関連—健やか親子21最終評価の乳幼児健康診査調査より—、第24回日本疫学会学術総会、2014年1月、宮城県(仙台市)
- 6) 池田有、篠原亮次、市川香織、尾島俊之、玉腰浩司、松浦賢長、山崎嘉久、山縣然太郎:自治体の継続的な母乳育児推進が母乳育児に与える効果の検証—健やか親子21最終評価の調査から—、第24回日本疫学会学術総会、2014年1月、宮城県(仙台市)
- 7) 山縣然太郎. 特別講演「健やか親子21の評価と今後の取り組み」. 第61回日本母性看護学会学術集会. 2014年6月. 京都.
- 8) 山縣然太郎. シンポジウム18「次期健やか親子21を踏まえた母子保健計画の策定について」(座長):わが国の母子保健の健康格差の現状(シンポジスト). 第73回日本公衆衛生学会総会. 2014年11月. 栃木県.
- 9) 山縣然太郎. 基調講演「健やか親子21(第2次)が目指すもの」(シンポジウム第I部において). 平成26年度健やか親子21全国大会(母子保健家族計画全国大会). 2014年11月. 愛媛県.
- 10) 山縣然太郎, 山崎嘉久. 子どもの健康格差の実態—健やか親子21の最終評価から—. 第117回日本小児科学会. 2014年4月. 愛知県.
- 11) 山崎嘉久, 山縣然太郎. 健やか親子21の評価からみた21世紀の我が国の母子保健の現状と課題. 第117回日本小児科学会. 2014年4月. 愛知県.
- 12) 山縣然太郎, 篠原亮次, 秋山有佳. 次子出産希望は妊娠育児中の夫の支援が必要—子育て支援のための労働環境のあり方—. 第87回日本産業衛生学会. 2014年5月. 岡山県.
- 13) 秋山有佳, 篠原亮次, 市川香織, 尾島俊之, 玉腰浩司, 松浦賢長, 山崎嘉久, 山縣然太郎. 妊娠中の母親の喫煙状況別に見た児の出生体重平均の相違～健やか親子21最終評価の全国調査より～. 第61回日本小児保健協会学術集会. 2014年6月. 福島県.
- 14) 篠原亮次, 秋山有佳, 市川香織, 尾島俊之, 玉腰浩司, 松浦賢長, 山崎嘉久, 山縣然太郎. 母子保健における妊娠・出産満足尺度の作成—健やか親子21最終評価の調査データ解析—. 第61回日本小児保健協会学術集会. 2014年6月. 福島県.
- 15) 山縣然太郎, 尾島俊之. 地域診断と新しい母子保健計画の作り方を学ぼう!!～知ろう・語ろう・考えよう!“一歩先行く”健やか親子21(自由集会). 第73回日本公衆衛生学会総会. 2014年11月. 栃木県.
- 16) 秋山有佳, 篠原亮次, 元木愛理, 市川香織, 尾島俊之, 玉腰浩司, 松浦賢長, 山崎

- 嘉久，山縣然太朗。妊娠・育児期の母親を取り巻く環境の都道府県格差-健やか親子21データから-。第73回日本公衆衛生学会総会。2014年11月。栃木県。
- 17) 元木愛理，篠原亮次，秋山有佳，市川香織，尾島俊之，玉腰浩司，松浦賢長，山崎嘉久，山縣然太朗。妊娠・育児期の母親を取り巻く環境の人口規模別比較-健やか親子21データから-。第73回日本公衆衛生学会総会。2014年11月。栃木県。
- 18) 山縣然太朗。健やか親子21の最終評価からみた徳島県の母子保健について。平成26年度第1回母子保健研修会（徳島県）。2014年6月。徳島県。
- 19) 山縣然太朗。健やか親子21の最終評価からみた徳島県の母子保健について。平成26年度医療費適正化に向けた研修会Ⅰ。2014年7月。三重県。
- 20) 山縣然太朗。自治体で“どう取り組む？”「健やか親子21」の最終評価と次期計画の策定の実際の進め方について。「健やか親子21（第2次）」計画づくり研修。2014年9月。国立保健医療科学院（埼玉県和光市）。
- 21) 山縣然太朗。「健やか親子21との連携」の進め方（セッション2）。「健康日本21（第二次）の推進」に関する実践マニュアル研修会。2014年12月。東京都。
- 22) 山縣然太朗，篠原亮次，秋山有佳，松浦賢長，玉腰浩司，尾島俊之，市川香織，山崎嘉久。日本における子どもの健康格差の実態-健やか親子21の最終評価から-。第62回日本小児保健協会学術集会。2015年6月。長崎県。
- 23) 篠原亮次，秋山有佳，市川香織，玉腰浩司，尾島俊之，松浦賢長，山崎嘉久，山縣然太朗。産後の児への栄養法の変化と自治体の継続的な母乳育児推進事業との関連検討-健やか親子21最終評価の調査から-。第62回日本小児保健協会学術集会。2015年6月。長崎県。
- 24) 秋山有佳，篠原亮次，市川香織，玉腰浩司，尾島俊之，松浦賢長，山崎嘉久，山縣然太朗。3歳児の保護者の経済状況と育児環境との関連-健やか親子21最終評価の全国調査より-。第62回日本小児保健協会学術集会。2015年6月。長崎県。
- 25) 山縣然太朗。メインシンポジウム1-1「母子保健領域における健康づくり」。第74回日本公衆衛生学会総会。2015年11月。長崎県。
- 26) 一瀬篤，山縣然太朗，松浦賢長，山崎嘉久。シンポジウム15「乳幼児健診の現状と未来～「健やか親子21（第2次）」の推進に向けて～」。第74回日本公衆衛生学会総会。2015年11月。長崎県。
- 27) 篠原亮次，秋山有佳，市川香織，尾島俊之，玉腰浩司，松浦賢長，山崎嘉久，山縣然太朗。乳児期の母親の喫煙と市町村の継続的育児支援の関連-健やか親子21最終評価から-。第74回日本公衆衛生学会総会。2015年11月。長崎県。
- 28) 秋山有佳，篠原亮次，市川香織，尾島俊之，玉腰浩司，松浦賢長，山崎嘉久，山縣然太朗。居住地域での今後の子育て希望と母子保健施策との関連-健やか親子21追加調査から-。第74回日本公衆衛生学会総会。2015年11月。長崎県。
- 29) 秋山有佳，篠原亮次，元木愛理，市川香織，尾島俊之，玉腰浩司，松浦賢長，山崎嘉久，山縣然太朗。居住地域での継続的な子育て希望と市区町村の母子保健施策取組状況との関連-健やか親子21の調査から-。第26回日本疫学会学術総会。2016

- 年 1 月. 鳥取県.
- 30) 元木愛理, 篠原亮次, 秋山有佳, 市川香織, 尾島俊之, 玉腰浩司, 松浦賢長, 山崎嘉久, 山縣然太朗. 産後うつ予防に関する取り組みと保護者の育児に対する自信—健やか親子 2 1 データより—. 第 26 回日本疫学会学術総会. 2016 年 1 月. 鳥取県.
- 31) 田中久子, 澤田樹美, 瀧本秀美, 原田正平: 肥満児に対する父子介入プログラムの有効性評価: 無作為化比較試験の研究プロトコル. 第 73 回日本公衆衛生学会総会. 平成 26 年 11 月. 栃木県宇都宮市
- 32) 関華衣, 清水夕奈, 澤田樹美, 田中久子, 原田正平: 社会的認知理論に基づいた栄養教育プログラムの開発にむけた文献レビュー. 第 24 回日本健康教育学会学術大会. 平成 27 年 7 月. 群馬県前橋市
- 33) 田中久子, 大田えりか, 高橋美恵子, 鴨志田純子, 澤田樹美, 井上永介, 蕨迫栄美子, 津田正彦, 原田正平: 世田谷区における肥満児に対する父親に重点を置いた家族介入プログラムの有効性評価. 日本外来小児科学会第 16 回 園・学校保健勉強会. 平成 28 年 3 月. 東京都町田市
- 34) 山崎嘉久: 乳幼児健診事業の評価について. 第 74 回日本公衆衛生学会シンポジウム「乳幼児健診の現状と未来 ～「健やか親子 2 1 (第 2 次)」の推進に向けて～」(日本公衆衛生学会総会抄録集 74 回, p120, 2015)
- 35) 新美志帆他: 乳幼児健診に関連した法令や通知と健康課題の変遷. 第 74 回日本公衆衛生協会学術集会 (日本公衆衛生学会総会抄録集 74 回, p335, 2015)
- 36) 山崎嘉久他: 乳幼児健診の共通問診項目の利活用 ～生活習慣の縦断データの分析手法について～ 日本小児保健協会第 62 回学術集会・長崎市 2015 年 6 月
- 37) 仲宗根正, 上里恵理子, 田中太一郎, 山縣然太朗: 沖縄県 A 市における妊婦健診受診状況の検討 第 72 回日本公衆衛生学会総会, 三重, 2013. 10.
- 38) 田沢広美, 田中太一郎, 林友紗, 仲宗根正, 上里とも子, 糸数公, 山縣然太朗: 沖縄県妊産婦・乳幼児支援体制整備事業 (第 1 報) —事業の概略— 第 74 回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015. 11.
- 39) 田中太一郎, 林友紗, 仲宗根正, 田沢広美, 上里とも子, 糸数公, 山縣然太朗, 西脇祐司: 沖縄県妊産婦・乳幼児支援体制整備事業 (第 2 報) —妊婦健診受診回数に関する検討— 第 74 回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015. 11.
- 40) 林友紗, 田中太一郎, 仲宗根正, 田沢広美, 上里とも子, 糸数公, 山縣然太朗, 西脇祐司: 沖縄県妊産婦・乳幼児支援体制整備事業 (第 3 報) —低出生体重児の要因分析— 第 74 回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015. 11.
- 41) 第 72 回公衆衛生学会. 荒木田美香子, 藤田千春, 大谷喜美江, 青柳美樹. 発達障害児に関する保育所・幼稚園の教職員と地域保健の連携状況の質の評価指標の開発.
- 42) 第 60 回日本学校保健学会. 荒木田美香子, 中村富美子, 竹中香名子, 高橋佐和子. 発達障害児に関する保育所幼稚園の教職員と地域保健の連携を促進する要因.
- 43) 荒木田美香子, 奥野裕子, 毛利栄子. 発達障害児の親へのペアレントトレーニング. 日本家族看護学会学術集会. 岡山. 2014.
- 44) 荒木田美香子, 竹中香名子, 高橋佐和子. 幼稚園・保育所と地域保健との連携を促すための資料集の作成. 金沢. 2014.
- 44) 荒木田美香子, 山下留理子, 古畑恵美子,

臺有桂, 西村和美, 長澤久美子, 富澤栄子.
子どもの育てにくさとペアレントトレーニングの利用意向に関する検討. 日本看護科学学会. 2015

- 45) 竹中 香名子, 荒木田 美香子, 藤田 千春.
子どもの育てにくさと市町村の育児・乳幼児健診情報の保育所・幼稚園への情報提供に関する調査. 小児保健研究. 74 巻
講演集 : 244. 2015

F. 知的財産権の出願・登録状況

なし

Ⅱ . 総合研究報告書

「健やか親子21」の最終評価・「健やか親子21（第2次）」の指標策

定および情報の利活用の環境整備に関する経過報告

研究代表者	山縣 然太朗	（山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座）
研究分担者	松浦 賢長	（福岡県立大学看護学部）
研究分担者	山崎 嘉久	（あいち小児保健医療総合センター）
研究分担者	尾島 俊之	（浜松医科大学医学部健康社会医学講座）
研究分担者	玉腰 浩司	（名古屋大学医学部保健学科看護学専攻）
研究協力者	市川 香織	（文京学院大学保健医療技術学部看護学科）
研究協力者	藤内 修二	（大分県中部保健所）
研究協力者	篠原 亮次	（山梨大学大学院医学工学総合研究部附属出生コホート研究センター）
研究協力者	秋山 有佳	（山梨大学大学院医学工学総合教育部社会医学講座）

平成13年から開始された「健やか親子21」は平成25年度に最終評価を実施し、翌年26年末で終了となり、平成27年度からは次期計画の開始が計画されていた。本研究班は、「健やか親子21」の最終評価に関する調査、分析、評価を行い、その最終評価の結果を踏まえ、次期計画に関連する資料を収集、分析し、次期計画の新たな課題および指標を策定することを目的とした。また、次期計画の推進および、母子保健に関する情報の利活用を推進するための研究を実施していくことも目的とした。そこで本稿では、次の3点について報告する。

1. 最終評価および次期計画策定経過について
2. 次期計画に資するベースライン調査、分析および目標値の検討、設定経過について
3. 次期計画推進のための環境整備

平成25年度は最終評価に向け、各都道府県で人口規模別に各10の市区町村（計472か所）を選別し、約7万5千の乳幼児健診対象の養育者に「親子の健康度調査アンケート」の質問票調査を実施した。また全国の都道府県、政令市・特別区、市町村の各自治体に対し『「健やか親子21」の推進状況に関する実態調査』を実施し、「健やか親子21」に関する取り組み状況等を調査した。調査終了後、収集データの分析を行い、結果を国の「健やか親子21」の最終評価検討会へ提出した。そして、最終評価の結果を受け、平成27年度から始まる次期計画の基本的視点や新課題の設定、指標の選定を行った。また、「健やか親子21」次期計画に関する検討会において各委員から出された意見を反映し、新課題の構成案、指標項目に関する「目標シート」と目標達成イメージ図を作成した。平成25年度末には次期計画が策定されたが、いくつかの指標に関しては新たに調査を実施する必要があると判断し、新指標に関するベースライン調査および分析を平成26年度に行った。対象は、基本的には最終評価を実施した市区町村とし、約5万6千の対象者から回答を得られ、そのデータを基に次期計画のベースライン値および目標値を策定した。

さらに、最終評価および平成27年度から開始された次期計画（「健やか親子21（第2次）」）に関する研修会の実施、第2次のホームページの構築、運営、乳幼児健診情報システムの開発等、情報利活用の環境整備を進め、「健やか親子21（第2次）」の周知および推進の一助となったと考えられる。

A. 研究目的

平成 13 年から開始された「健やか親子 2 1」は平成 25 年度に最終評価を実施し、翌年 26 年末で終了となり、平成 27 年度からは次期計画の開始が計画されていた。本研究班は、「健やか親子 2 1」の最終評価に関する調査、分析、評価を行い、その最終評価の結果を踏まえ、次期計画に関連する資料を収集、分析し、次期計画の新たな課題および指標を策定することを目的とした。また、次期計画の推進および、母子保健に関する情報の利活用を推進するための研究を実施していくことも目的とした。そこで本稿では、次の 3 点について報告する。

1. 最終評価および次期計画策定経過について

平成 26 年に最終年を迎える「健やか親子 2 1」の指標に関して最終評価を行い、指標の目標達成状況や新たな課題を明らかにする。そして、その最終評価の結果を受け、次期計画の基本的視点と指標の選定、計画の骨格や推進方略を検討し、平成 27 年度以降の次期計画策定に資することを目的とした。

本稿では最終評価から次期計画策定に向けた研究班による検討会議、調査方法、分析結果、残された課題、各自治体への結果送付の方法や実作業の状況など最終評価の実施から次期計画策定までのプロセスに関する経過報告を行う。

2. 次期計画に資するベースライン調査、分析および目標値の検討、設定経過について

次期計画の指標のベースライン値および目標値は基本的に国が公表している既存の調査データおよび「健やか親子 2 1」最終評価から検討したが、いくつかの指標に関しては新たに調査を実施する必要があった。そこで、新指標に関するベースライン調査および分析を行い、

目標を設定し、次期計画に資することを目的とした。

本稿では次期計画の指標、ベースライン値および目標値の設定に向けた研究班による検討会議、調査方法、分析結果、各地方自治体への結果送付の方法や実作業の状況等に関する経過報告を行う。

3. 次期計画推進のための環境整備

平成 26 年で「健やか親子 2 1」は終了となり、平成 27 年度より新たな計画が開始された。本研究班は、これまで「健やか親子 2 1」推進のために、特に情報の利活用、連携の視点でその推進を支援してきた。具体的には「健やか親子 2 1」ホームページの構築・運営、搭載した母子保健情報および地域での取り組みのデータベースの運営を行ってきた。さらに、乳幼児健診の情報の利活用に関するモデル事業を実施し、開発した母子保健情報利活用ソフトの有用性を検証し、保健所と市町村が情報の利活用による連携の実践ひな型を提示してきた。

しかしながら、平成 25 年度に実施された「健やか親子 2 1」の最終評価等に関する検討会においては、母子保健事業の推進のための母子保健情報の利活用が不十分とし、「問診内容等情報の地方公共団体間の比較が困難なこと」、「情報の分析・活用ができていない地方公共団体があること」、「関連機関の間での情報共有が不十分なこと」という現状課題があげられた。

これら課題を受け、「健やか親子 2 1（第 2 次）」においては、さらなる情報の利活用促進のため、情報利活用の環境整備を強化する必要性があった。そこで平成 27 年度、本研究班では『「健やか親子 2 1（第 2 次）」の推進のための情報利活用の環境整備」を計画にあげ、次期計画に資することを目的とした。

本稿では次期計画推進のための情報利活用

の環境整備についての研究班による検討会議、研究会議、研修会の実施に関する経過報告を行う。

B. 研究方法

1. 最終評価および次期計画策定経過について

1) 最終評価および次期計画策定に関する検討会議

本研究班が平成 25 年度に実施した、最終評価および次期計画策定に関する検討会議は、研究班全体の会議（班会議）を 2 回、ワーキンググループ会議（WG 会議）を計 9 回（合宿会議含め）実施した。班会議においては、今後の全体的な研究方針や方向性の決定、また各分担研究者（研究協力者）から研究進捗状況等の報告や討議等を行い、分担研究者間の情報共有と研究班全体の調整を図った。一方、WG 会議においては、班全体の研究の方向性、指標の最終評価に関する調査方法、データ解析と評価、その他、作業工程などの詳細な検討や討議を行い、実作業につなげた。

また、次期計画に関する検討は最終評価と並行して行った。検討内容は、前記の基本的視点に沿って次期計画の方向性や指標案を検討した。次期計画の策定に必要な参考情報を得るため、母子保健関係の専門家を招聘し、研究発表等を依頼した。平成 25 年度は第 7 回 WG 会議において、澁谷いづみ氏（愛知県豊川保健所）、竹原健二氏（国立育成医療研究センター研究所）の研究発表を行った。

これらの検討から、新課題の構成案、指標項目に関する「目標シート」と目標達成イメージ図を作成し、次期指標案を国の検討会に提出した。

最終評価および次期計画策定に関する会議の各会議実施日程は次の通りである。

【班会議】

第 1 回班会議：平成 25 年 5 月 17 日（金）

（時間：18：00～21：00 場所：東京）

第 2 回班会議：平成 26 年 3 月 8 日（土）

（時間：10：00～12：00 場所：東京）

【WG 会議】

第 1 回 WG 会議：平成 25 年 4 月 15 日（月）

（時間：18：00～21：00 場所：東京）

第 2 回 WG 会議：平成 25 年 6 月 18 日（火）

（時間：18：00～21：00 場所：東京）

第 3 回 WG 会議：平成 25 年 7 月 5 日（金）

（時間：18：00～21：00 場所：東京）

第 4 回 WG 会議：平成 25 年 8 月 2 日（金）

～ 8 月 3 日（土）

（時間：19：00～翌 15：00 場所：山梨）

第 5 回 WG 会議：平成 25 年 9 月 17 日（月）

（時間：18：00～21：00 場所：東京）

第 6 回 WG 会議：平成 25 年 10 月 21 日（月）

（時間：18：00～21：00 場所：東京）

第 7 回 WG 会議：平成 25 年 12 月 16 日（月）

（時間：10：00～12：00 場所：東京）

第 8 回 WG 会議：平成 26 年 1 月 10 日（月）

（時間：18：00～21：00 場所：東京）

第 9 回 WG 会議：平成 26 年 3 月 28 日（金）

（時間：16：00～18：00 場所：東京）

これら上記の各会議の開催に加えて、研究代表者等と厚生労働省・母子保健課の各担当者による打ち合わせを行った。主な打ち合わせ内容は、最終評価および次期計画に関する評価・研究の基盤となる方向性の議論、また国の検討会（「健やか親子 21」の最終評価等に関する検討会）への提出資料を精査するなどである。日程は次の通りである。

【研究代表等と厚生労働省・母子保健課との打ち合わせ】

- 第1回打ち合わせ:平成25年4月24日(水)
(時間:13:30~14:30 場所:厚生労働省)
- 第2回打ち合わせ:平成25年5月29日(水)
(時間:16:30~17:30 場所:厚生労働省)
- 第3回打ち合わせ:平成25年7月25日(木)
(時間:12:30~14:30 場所:厚生労働省)
- 第4回打ち合わせ:平成25年8月22日(木)
(時間:13:00~14:00 場所:厚生労働省)
- 第5回打ち合わせ:平成25年9月13日(金)
(時間:15:00~16:00 場所:厚生労働省)
- 第6回打ち合わせ:平成25年11月8日(金)
(時間:12:30~15:30 場所:厚生労働省)
- 第7回打ち合わせ:平成25年11月27日(水)
(時間:9:30~12:30 場所:厚生労働省)
- 第8回打ち合わせ:平成25年12月2日(月)
(時間:9:30~12:00 場所:厚生労働省)
- 第9回打ち合わせ:平成26年2月12日(水)
(時間:19:30~20:30 場所:厚生労働省)
- 第10回打ち合わせ:平成26年2月26日(水)
(時間:10:00~11:30 場所:厚生労働省)
- 第11回打ち合わせ:平成26年3月20日(木)
(時間:14:30~15:30 場所:厚生労働省)

班会議、WG会議および研究代表等と厚生労働省・母子保健課との打ち合わせで検討し作成した資料を国の検討会(「健やか親子21」の最終評価等に関する検討会)に提出した。さらに、国の検討会の各委員の意見を次期指標案へ反映し、追加・修正等を行った。

国の検討会(「健やか親子21」の最終評価等に関する検討会)は全9回が予定され、第1回~第3回は最終評価の検討、次期計画策定に関する検討会は第4回~第9回である。各検討会の日程は以下の通りである。

【「健やか親子21」の最終評価等に関する検討会】

- 第1回検討会:平成25年7月29日(月)
議題:・進捗の状況
・最終評価の進め方
・最終評価(指標に基づく分析・評価①)
- 第2回検討会:平成25年9月4日(水)
議題:・最終評価(指標に基づく分析・評価②)
・現計画の総括評価
・次期計画への課題検討など
・最終報告書骨子案
- 第3回検討会:平成25年10月28日(月)
議題:・最終報告書案とりまとめ
- 第4回検討会:平成25年11月18日(月)
議題:・今後の進め方
・次期計画の検討の視点について
・目指すべき姿(全体の目標)、基本的な方向(個々の課題についての目標)の検討
・指標・目標値の検討①
- 第5回検討会:平成25年12月25日(水)
議題:・目指すべき姿(全体の目標)、基本的な方向(個々の課題についての目標)の決定
・指標・目標値の検討②
・マタニティマークの更なる普及について
- 第6回検討会:平成26年1月29日(水)
議題:・目標・目標値の検討③
・各指標の評価方法等について①
・推進体制のあり方について①
- 第7回検討会:平成26年2月13日(木)
議題:・指標・目標値の検討④
・各指標の評価方法等について②
・推進体制のあり方について②

- ・次期計画報告書の骨子（案）について

第8回検討会：平成26年3月5日（水）

議題：・次期計画報告書（案）について

第9回検討会：平成26年3月28日（金）

議題：・次期計画報告書（案）とりまとめ

2) 最終評価について

最終評価の基本的考え方は、次の3点である。第1に過去2回の間接評価の実績のもとで最終評価を行うこと、第2に本研究の特徴は、最終評価の対象市町村が過去2回の間接評価の対象市町村と同じ市町村で実施することにより、「健やか親子21」への取組状況と指標の推移を評価すること、第3は、さらに対象市町村を各都道府県10か所（全470市町村：113,000人を対象）に増やすことで、都道府県及び市町村の健康格差の評価をすることである。

調査方法は各都道府県で人口規模別に各10の市区町村（計472か所）を選別し、約7万5千の乳幼児健診対象の養育者に質問票調査を実施した。また全国自治体に対し「健やか親子21」に関する取組の状況を調査した。

分析は、過去2回の間接評価の対象市区町村データとのリンケージによる指標の推移評価を行い、最終評価分析シートを作成した。

3) 次期指標について

最終評価結果を受け、次期計画の策定にあたり、基本的視点として次の5つを置く。

- ①現健やか親子21の最終評価を踏まえ、科学的根拠に基づくこと
 - ア) 達成できていない指標の取り扱い方法
 - イ) 情報の利活用が不十分であるため、その推進策の検討

- ウ) 母子保健施策の科学的根拠の確認
- ②発達障害、虐待の問題の取り扱いの検討を行うこと
 - ア) 発達障害対策、支援の目標の検討
 - ・社会の理解の必要性
 - イ) 虐待の目標は死亡数と相談件数でよいか
- ③健康日本21（第二次）との整合性を考慮すること
 - ア) 生涯を通じた健康づくり
 - ・食育、運動、胎児期からの健康づくり
 - イ) 健康格差の現状と是正
 - ウ) ソーシャル・キャピタルの位置づけ
 - ・健康格差は都道府県別のみならず、市町村単位でも考えるべき
 - ・市町村における母子保健サービスの違いは格差か多様性か
- ④社会で子どもを育てることの具体策とそれを実現する母子保健体制のあり方を見直すこと
 - ・母子保健の体制について、社会で子どもを守り、育てるとの視点からの包括的なあり方の検討
- ⑤国際的視点と国際貢献

国際化が進み母子保健を取り巻く環境が変化する中、国際的な視野に立った計画の策定が必要である。また、新興国で起きている急速な母子保健状況の変化は、わが国がかつて経験した課題と現在わが国で問題となっている健康課題が同時に起きており、母子保健水準が世界トップクラスのわが国の施策を紹介し、ともに考えることで国際貢献に寄与することができる。

これらの視点を基本に、新課題の構成案、指標項目に関する「目標シート」と目標達成イメージ図を作成した。

2. 次期計画に資するベースライン調査、分析 および目標値の検討、設定経過について

1) 次期計画に資する調査、分析および目標値 に関する検討会議

新指標に関する追加調査の方法、分析、そしてベースライン値および目標設定に関する会議を平成26年度に行った。研究班全体の会議（班会議）を2回、ワーキンググループ会議（WG会議）を2回開催した。班会議においては、平成26年度の全体的な研究班の研究計画内容や方向性の決定、また各研究分担者（研究協力者）から研究進捗状況の報告や討議等を行い、研究分担者間の情報共有と研究班全体の調整を図った。一方、WG会議においては、班全体の研究の方向性、次期計画の指標の調査方法、追加調査、データ解析、評価等の詳細な検討および討議を行った。各会議実施の日程は次の通りであった。

【班会議】

第1回班会議：平成26年5月23日（金）

（時間：18：00～21：00 場所：東京）

第2回班会議：平成27年2月6日（金）

（時間：18：00～21：00 場所：東京）

【WG会議】

第1回WG会議：平成26年4月25日（金）

（時間：18：00～21：00 場所：東京）

第2回WG会議：平成26年9月19日（金）

（時間：18：00～21：00 場所：東京）

【研究代表等と厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課との打ち合わせ】

第1回打ち合わせ：平成26年6月19日（木）

（時間：10：00～12：00 場所：厚生労働省）

第2回打ち合わせ：平成26年10月7日（火）

（時間：14：00～16：00 場所：厚生労働省）

第3回打ち合わせ：平成26年12月5日（金）

（時間：14：00～16：00 場所：厚生労働省）

第4回打ち合わせ：平成26年12月15日（月）

（時間：15：30～17：00 場所：厚生労働省）

班会議、WG会議および研究代表等と厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課との打ち合わせで検討し作成した資料を国の検討会（「健やか親子21」の最終評価等に関する検討会）に提出した。検討会の日程は以下の通りであった。

【「健やか親子21」の最終評価等に関する 検討会】

第10回検討会：平成26年10月24日（金）

（時間：14：30～17：30 場所：厚生労働省）

議題：・次期計画における指標および目標等の設定について

- ・次期計画における推進体制について
- ・その他

2) 次期計画指標のための追加調査の対象市区町村の調査実施方法の検討

追加調査の対象市区町村は、昨年度最終評価を実施した市区町村を基本とし、調査協力が困難と回答した市区町村があった場合は、同都道府県内の同規模の市区町村から代替市区町村を選定することとした。

3) 次期計画指標のベースライン値および目標値の設定について

ベースライン値および目標値が設定されていない指標について、本研究班が実施した追加調査（「健やか親子21（第2次）」のための実態調査）、厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課調査、内閣府の母子保健に関する世論調査等の結果から値を検討し、設定した。また、

その他の指標の値についても再検討し、課題ごとに目標シートを作成した。

3. 次期計画推進のための環境整備

1) 『「健やか親子21」最終評価・次期計画研修会～全国ブロック研修会～』について

平成27年度から次期計画が開始されることに伴い、平成26年6月17日付で厚生労働省から各地方自治体に母子保健計画策定指針が示され、母子保健計画の見直しおよび策定が求められることとなった。これにより、各地方自治体は各々の母子保健計画の策定が必要となるため、地方自治体の母子保健担当者への、「健やか親子21」の最終評価および次期計画の進め方について、基本的な考え方や地域分析の方法等を周知する必要があると考えられた。

研修会は社会福祉法人恩賜財団母子愛育会が主催し、厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課による「健やか親子21」の最終評価および次期計画についての講義、研究班員による最終評価方法の講義、ヘルスプロモーション研究センターによる地域診断の方法等の講義を行うこととした。以下に日程および内容を示す。

【日程】

- ・北海道・東北ブロック
日時：平成26年6月4日（水）～5日（木）
場所：東北エレクトロンホール宮城
研究班担当者：篠原 亮次（山梨大学）
- ・関東ブロック
日時：平成26年6月19日（木）～20日（金）
場所：社会福祉法人恩賜財団母子愛育会
研究担当者：山縣 然太郎（山梨大学）
- ・中部ブロック
日時：平成26年7月8日（火）～9日（水）
場所：名古屋国際センター

研究班担当者：尾島 俊之（浜松医科大学）

・近畿ブロック

日時：平成26年6月12日（木）～13日（金）

場所：エル大阪

研究班担当者：篠原 亮次（山梨大学）

・中国・四国ブロック

日時：平成26年6月26日（木）～27日（金）

場所：岡山コンベンションセンター

研究班担当者：山崎 嘉久（あいち小児保健医療総合センター）

・九州・沖縄ブロック

日時：平成26年7月22日（火）～23日（水）

場所：博多バスターミナル

研究班担当者：松浦 賢長（福岡県立大学）

【内容】

≪1日目≫

講義①：「健やか親子21」の最終評価および次期計画について

講義②：「健やか親子21」について各自治体でも最終評価をしてみよう（理論編）（研究班担当）

情報提供：新たな小児慢性特定疾病対策について

≪2日目≫

講義③：地域特性に応じた地域診断の進め方

講義④：コミュニティ アズ パートナーモデルの活用

グループワーク：最終評価と地域診断を体験してみよう（実践編）

講義⑤：課題の優先順位の付け方

2) 次期計画推進のための情報利活用の環境整備に関する検討会議

次期計画推進のための情報利活用の環境整備を充実させるための検討会議を平成27年度に実施した。研究班全体の会議（班会議）を2

回、次期計画のホームページに関する打合せ2回、乳幼児健診情報システム（乳幼児健診時の必須項目入力システム）¹⁾のデモンストレーションおよび自治体への研修会に関する打ち合わせを1回、実施した。

班会議においては、今年度の全体的な研究班の研究計画内容や方向性の決定、また各研究分担者（研究協力者）から研究進捗状況の報告や討議等を行い、研究分担者間の情報共有と研究班全体の調整を図った。一方、次期計画のホームページと乳幼児健診情報システムの打ち合わせにおいては、ホームページのコンテンツに関する検討、乳幼児健診情報システムの提案や自治体への研修会内容に関する検討を行った。各会議実施の日程は次の通りである。

【班会議】

第1回班会議：平成27年5月15日（金）

（時間：18：00～21：00 場所：東京）

第2回班会議：平成27年1月6日（水）

（時間：15：00～21：00 場所：東京）

【次期計画のホームページに関する打ち合わせ】

第1回打ち合わせ：平成27年5月16日（土）

（時間：12：00～14：00 場所：東京）

第2回打ち合わせ：平成26年7月15日（水）

（時間：10：00～12：00 場所：厚生労働省）

【乳幼児健診情報システムに関する打ち合わせ】

打ち合わせ日時：平成26年6月19日（木）

（時間：10：00～12：00 場所：厚生労働省）

- ・乳幼児健診情報システムのデモンストレーション
- ・自治体への研修会内容に関する検討

3) 「乳幼児健診情報システム」の構築

(1) 「乳幼児健診情報システム」の開発

平成25年度に実施された「健やか親子21」の最終評価等に関する検討会において、母子保健事業の推進のための母子保健情報の利活用が不十分という現状課題があげられた。これを受け本研究班では、平成26年度成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「乳幼児健康診査の実施と評価ならびに多職種連携による母子保健指導のあり方に関する研究」（研究代表者：山崎嘉久）と共同して、乳幼児健診における全国共通の問診項目の検討および提案を行った。また、本研究班が平成17年にアクセスというソフト（Microsoft Access）を使用し、開発した既存の乳幼児健診データ用簡易データベース（母子保健情報システム）を活用し、前記の問診項目用に改修し、市区町村版のシステムを作成した。さらに平成27年度には、都道府県・保健所版を作成予定としていた。しかしながら、アクセスを使用した都道府県・保健所版の開発は、自治体におけるシステムのインストール、入力項目の追加改修などに対して専門知識が必要なため汎用性が課題であった。そこで本研究班では、使いやすさや汎用性を考慮し、自治体で一般的に使用されているエクセル（Microsoft Excel）ソフトを用いて、新たに乳幼児健診情報システム（市区町村版および都道府県・保健所版）の開発およびマニュアルの作成を行うこととした。

(2) 市区町村版

必須問診項目の入力画面、入力データの集計とその表示機能、項目ごとのグラフ表示機能、都道府県へのデータ報告用ファイル作成機能を備えたシステムとする。

(3) 都道府県・保健所版

管内の各市区町村から送られてきた報告データの自動取込機能、各市区町村データの統

合・集計機能、各市区町村別の項目別比較グラフ（統合データ平均値の表示も追加）、国への報告用ファイルの自動作成機能などを備えたシステムとする。

(4) 自治体へのシステム配布方法

各市区町村への配布は、山梨大学設置のサーバーで運用している「健やか親子21ホームページ」および「取り組みのデータベース」の機能を使用し、提供した。各市区町村はホームページにアクセスし、取り組みのデータベースへの団体情報登録時に得た市区町村ごとのパスワードを使用し、システムダウンロード画面へ進むようにした。これは、自治体関係者以外のアクセス制限を目的としている。

(5) 自治体向けシステム・マニュアル作成

システム・マニュアルは次の4点を作成することとした。

- ①乳幼児健診情報システム・ダウンロード画面への入り方（市区町村用）
- ②乳幼児健診情報システム・ダウンロードガイド（市区町村用）
- ③乳幼児健診情報システム・マニュアル（市区町村版）ご利用ガイド
- ④乳幼児健診情報システム・マニュアル（都道府県版）ご利用ガイド

4) 平成27年度母子保健指導者養成研修等事業（厚生労働省主催、一般社団法人日本家族計画協会事務局）における「健やか親子21（第2次）」と母子保健計画の策定・評価と乳幼児健診情報の利活用についての研修

平成27年度母子保健指導者養成研修等事業（厚生労働省主催、一般社団法人日本家族計画

協会事務局）、「平成27年度『健やか親子21（第2次）』と母子保健計画の策定・評価と乳幼児健診情報の利活用についての研修」において、「乳幼児健診情報システムの基本的な利用・活用の仕方」、「都道府県の立場で乳幼児健診情報システムの応用について考える」の講義と演習の準備を行った。

また、研修終了後の参加者アンケート（一般社団法人日本家族計画協会事務局・作成：資料1-1）の集計と記述内容をまとめた。

以下に研修日程を示す。

【日程】

・関東ブロック

日時：平成27年9月24日（木）

場所：大手町ラーニングルーム（東京）

研究班担当者：山縣然太郎（山梨大学）

篠原 亮次（山梨大学）

秋山 有佳（山梨大学）

・九州・沖縄ブロック

日時：平成27年9月28日（月）

場所：リファレンス駅東ビル（福岡）

研究班担当者：山縣然太郎（山梨大学）

篠原 亮次（山梨大学）

秋山 有佳（山梨大学）

・北海道・東北ブロック

日時：平成27年9月30日（水）

場所：TKP ガーデンシティ仙台勾当台（仙台）

研究班担当者：山縣然太郎（山梨大学）

篠原 亮次（山梨大学）

秋山 有佳（山梨大学）

・近畿ブロック

日時：平成27年10月21日（水）

場所：TKP ガーデンシティ東梅田（大阪）

研究班担当者：山縣然太郎（山梨大学）

篠原 亮次（山梨大学）

秋山 有佳（山梨大学）

5) 都道府県依頼の次期計画および「乳幼児健診システム」に関する講義・研修

各都道府県の担当者を対象として行った、平成 27 年度母子保健指導者養成研修等事業（厚生労働省主催、一般社団法人日本家族計画協会事務局）、「平成 27 年度『健やか親子 2 1（第 2 次）』と母子保健計画の策定・評価と乳幼児健診情報の利活用についての研修」を受け、各都道府県が市区町村への伝達講習会を実施した。その際、複数の自治体から依頼を受け、母子保健に関する研究会において講演および演習を行った。以下に日程を示す。

【日程】

・静岡県

日時：平成 27 年 12 月 2 日（水）

（時間：10：00～16：30）

場所：静岡県庁

研究班担当者：山縣然太朗（山梨大学）

・山梨県

日時：平成 27 年 12 月 21 日（月）

（時間：9：30～12：00）

場所：山梨県庁防災新館

研究班担当者：山縣然太朗（山梨大学）

秋山 有佳（山梨大学）

・新潟県

日時：平成 27 年 12 月 22 日（火）

（時間：13：30～16：00）

場所：新潟県新潟市

研究班担当者：山縣然太朗（山梨大学）

・岐阜県

日時：平成 28 年 1 月 25 日（月）

（時間：13：00～16：00）

場所：ふれあい福寿会館

研究班担当者：山縣然太朗（山梨大学）

・愛媛県

日時：平成 28 年 2 月 2 日（火）

（時間：13：00～16：40）

場所：愛媛県庁

研究班担当者：山縣然太朗（山梨大学）

篠原 亮次（山梨大学）

秋山 有佳（山梨大学）

（倫理面への配慮）

最終評価、追加調査等の質問票は、無記名であり、ID も存在せず個人識別は不可能となっている。データの解析や結果の公表に関しては、山梨大学医学部倫理委員会の承認を得ている（受付番号：1119）。

C. 研究結果

1. 最終評価および次期計画策定経過について

1) 最終評価および次期計画策定に関する検討結果

【班会議】

(1) 平成 25 年度第 1 回班会議～第 2 回班会議 検討結果

①最終評価について

- ・最終評価の進行状況の報告
- ・各分担研究者の研究状況の報告

②次期計画について

- ・各分担研究者の研究状況の報告
- ・平成 26 年度の計画について

ア) 健やか親子 2 1（第二次）（仮称）の指標に関する研究を行う。

（ベースライン調査が必要なものの研究を実施していく）

イ) 都道府県や市区町村における母子保健計画策定の支援を行う。

ウ) 妊娠届け出時から乳幼児健診までの母子保健情報の利活用システムを提案する。（山崎班と連携していく）

【第1回WG会議～第6回WG会議検討結果 (最終評価についての検討)】

(1) 評価の基本的な考え方について

- | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①改善した</p> <ul style="list-style-type: none">・目標を達成した・目標に達していないが改善した <p>②変わらない</p> <p>③悪くなっている</p> <p>④評価できない</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※これらの考え方に当てはまらない場合は、考え方を整理し評価する。また、指標名や過去の数値等について修正が必要な場合は修正する。

- ・基本はベースライン時との比較で評価する。
- ・ベースライン時の人数を推定して変化の割合を見る、または回帰で統計的に評価する。
- ・ベースライン時と調査が異なり、比較ができない場合は、第1回中間評価時との比較、ベースラインで用いた調査の直近の結果を利用する等の対応をとる。

(2) 評価シートの内容について (資料1-2)

- ・研究班・研究名称の記載方法を統一する。
- ・評価に用いた調査名、調査年、質問項目、算出方法を明記する。年は元号を使用する。
- ・全ての項目について、可能なものは都道府県別に見て格差を検討する。
- ・地域格差がある項目は、評価シートに記載していく。

(3) 収集データの還元方法について

《都道府県》

- ① 『健やか親子21』の推進状況に関する

実態調査」データ

- ・収集データ
- ・集計結果

- ② 「EPDSによる産後うつ頻度の把握に関するアンケート」調査

- ・集計結果

- ③ 「親と子の健康度調査アンケート」データ

- ・都道府県内の調査対象市区町村集計結果
- ・収集データ
- ・結果グラフ

《市区町村》

- ① 各市区町村の「親と子の健康度調査アンケート」集計結果

- ② 収集データ

- ③ 結果グラフ

※集計結果の記載について

- ・最終評価のみ実施対象となった市区町村…最終評価の結果、属している都道府県・全国の集計結果を掲載。
- ・第1回・第2回中間評価、最終評価実施対象市区町村…中間評価からの各市区町村の集計結果、属している都道府県・全国の集計結果を記載。

※収集データの扱い

(「親と子の健康度調査アンケート」データ)

- ・各都道府県から各市区町村に、市区町村データの利用について承諾をとってもらい、承諾が得られた市区町村のデータを都道府県に還元する。

【第4回WG会議～第9回WG会議検討結果 (次期計画についての検討)】

(1) 次期計画策定への参考情報の収集

次期計画の策定に必要な参考情報を得るため、母子保健関係の専門家2名を招聘し、研究発表を行った。